

2023.07.25 tue - 09.18 mon

【開催趣旨】

一針一針を縫い進めていくことで無限のイメージを作り出す刺繍は、伝統的な装飾品から身近な雑貨まで、時代と地域を越えて発展してきた表現技法です。本企画展は、独特の美しさと温もりで今も多くの人に愛されるこの技法の魅力を、約230点の出品作を通してご紹介するものです。

東欧の交差路スロヴァキアやトランシルヴァニアの伝統的な衣装やテキスタイル、独特の造形とあざやかな色彩が様々なアーティストに影響を与えているイヌイットの壁掛け、さらには、絵本の挿絵として制作されたのびやかな作品から精緻なオートクチュール刺繍まで、さまざまな分野を横断する多彩な作品をご紹介します。

素材が持つ“温かみ”や柔らかな“質感”、針で糸を縫い込んでいく“力強さ”といった刺繍が元来持つ魅力とともに、さまざまな地域・時代の文化を背景に生み出された作品を通して、この技法の多様性と可能性を感じていただけたら幸いです。

【このプレスリリースに関するお問い合わせ】

静岡県立美術館 〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田 53-2

担当：学芸課 貴家（さすが）・川谷・浦澤 / 企画総務課 伊藤

TEL 054-263-5857 FAX 054-263-5742 ホームページ <https://spmooa.shizuoka.shizuoka.jp>

E-Mail webmasterspmooa@spmooa.shizuoka.shizuoka.jp

本展の見どころ

1. 民俗衣装から絵本、現代アートにオートクチュールまで
— 大人も子どもも楽しめる多彩な刺繍作品、約 230 点が集合！
2. 東欧、カナダ、フランス、そして日本
— 刺繍を軸に異なる地域や時代の文化に触れる
3. 気鋭の刺繍作家・貝戸哲弥ほか追加出品とともに人気の展覧会がカムバック*

*2021年4月24日(土)～6月27日(日)、横須賀美術館での開催時には、都内が緊急事態宣言下であったにもかかわらず約1万8000人が来場。

基本情報

展覧会名	糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。
会 期	2023年7月25日(火)～9月18日(月・祝)
開館時間	10:00～17:30(展示室への入室は17:00まで)
夜間開館	8月11日(金)、12日(土) 10:00～19:00(展示室への入室は18:30まで)
休 館 日	月曜日、ただし8月14日(月)、9月18日(月・祝)は開館
観 覧 料	一般 1,200円(1,000円) 70歳以上 600円(500円) 大学生以下 無料 *()内は前売及び20名以上の団体料金。 *身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は無料。*事前予約不要。
会 場	静岡県立美術館 〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2 https://spsmoa.shizuoka.shizuoka.jp TEL 054-263-5857
アクセス	JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分 JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分、または北口から静鉄バスで約30分 静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分、または静鉄バスで約3分 車の方は、高速道路・静岡IC、清水ICから約25分、日本平久能山スマートICから約15分、新東名高速道路・新静岡ICから約25分
主 催	静岡県立美術館
後 援	駐日ルーマニア大使館、スロヴァキア共和国大使館、カナダ大使館
協 力	北海道立北方民族博物館、スロヴァキア国立民俗芸術制作センター
企画協力	株式会社イデッフ
巡 回	新潟県立万代島美術館 2023年5月20日(土)～7月17日(月・祝)
そ の 他	東アジア文化都市2023静岡県・県主催事業 https://culturecity-shizuoka.jp

各章の紹介

第1章 刺繍と民俗衣装



図1.《カロタセグ地方ハンガリー人スカーフ》(部分)
20世紀半ば 谷崎聖子、シェレシュ・バーリント蔵



図2.《スロヴァキア北西部トレンチン地方エプロン》
1920年 スロヴァキア民俗芸術制作センター蔵

本章では、中・東欧の民俗衣装を中心に、生活のなかで受け継がれてきた伝統的な刺繍を紹介し
ます。

現在、中・東欧として分類される国々では、地域によって異なるルーツと言語を持つ人々が、そ
れぞれの文化を背景とした独自の文様や技法による刺繍で伝統衣装を彩ってきました。

ルーマニア中部トランシルヴァニアのカロタセグ地方は、19世紀後半のオーストリア・ハンガ
リー帝国時代に、ハンガリー文化の源泉として注目された地域です。この地方に住むハンガリー
系の人々が手がけた刺繍は、太い線で布地を埋めたイーラーショシュと呼ばれるもので、力強
さ、素朴さを特徴としています。一方で、同地域のザクセン系の人々が手掛けた刺繍には、クロ
スステッチを中心とした整然としたデザインが多く見られます。

次いでご紹介するのは、華やかさと技巧性に富んだ刺繍を特徴とするスロヴァキアの民俗衣装や
装飾品です。伝統的に手工芸がさかんであった同地では、1960-80年代に、意欲的な指導者が
古い文様を復活させたり、各地の特徴ある図案を組み合わせたりして、質の高いデザインを生み
出しました。現在も、その保存・発展に努めている民俗芸術制作センターの協力の下、各地方の
特徴を備えた作品群をご覧ください。

第2章 イヌイットの壁掛け



図3.サラ・イヌクプク《ダッフル製壁掛け〈お魚の話をするイヌイット〉》
北海道立北方民族博物館蔵

第2章では、カナダの先住民族であるイヌイットの人々が、20世紀後半に制作した布絵の壁掛けをご紹
介します。

20世紀半ば以降、極北地域に住むイヌイットたちの
あいだでは、伝統的な狩猟生活から定住生活への切
り替わりが進みました。その経済的自立を支援する
ため、芸術作品の制作が奨励されるようになりま
す。ここでご覧いただくのも、版画や彫刻から始ま
ったそうした創作活動の一環で生まれた作品です。

かつて、狩猟によって仕留めた動物の毛皮で、家族の防寒着を手作りしていたイヌイットたちは、今度は材料をウールに変えて、表現活動を行うようになりました。

作品には、狩猟生活や、神話をはじめとする独自の伝承など、イヌイット固有の文化に根差したイメージが表現されており、動物の入念な表現には狩猟者としてのイヌイットならではの感受性が垣間見えます。その大胆な色彩と、ときにユーモラスな造形感覚は、つくり手の自由な表現であると同時に、イヌイットの世界を豊かに語り継ぐ、貴重なテクストとも言えます。

※本章には、イヌイットの人形が追加出品されます。



図4. アイリーン・アヴァーラーキアク・ティクタラーク
ダッフル製壁掛け〈赤いダッフルの上の三つの精〉
北海道立北方民族博物館蔵

第3章 刺繍と絵



左 図5. 大塚あや子(刺繍) / 武井武雄(図案)『武井武雄手藝図案集』刺繍 イルフ童画館蔵
中 図6. エヴァ・ヴォルフォヴァー《『コーヒーの泡から生まれたこねこ』絵本原画』作家蔵
右 図7. 樹田紅陽《Six Cubes》作家蔵

ここでは、近現代のアーティストによる、様々な糸の表現をご覧ください。

まず、絵本画家・童画家の草分けである武井武雄の図案集をもとに制作された現代の刺繍家・大塚あや子の作品をご紹介します。武井の自由闊達な線画を、巧みに刺繍へと置き換える、大塚の創意と技術にご注目ください。

1950年代チェコの厳しい社会体制下を生き延びたエヴァ・ブラズドヴァーにとって、刺繍は、失いかけていた生きる力を取り戻すきっかけとなりました。息子であり20世紀チェコを代表するアーティスト、パヴェル・ブラズダの原案による不思議な図案に惹き込まれます。

同じくチェコのエヴァ・ヴォルフォヴァーは、刺繍による絵本でチェコの著名なコンクールや文学賞に選ばれている現代の作家です。手作業の痕跡を強く感じさせる素朴さと、キッチンクロスや端切れなど身近な材料を取り入れた即興性、心和むストーリーに癒されます。

ふたたび日本から、樹田紅陽、蝸牛あや、小林モー子をご紹介します。

京都で刺繍業を営む家に生まれ、1987年に三世・紅陽を襲名した樹田紅陽は、緻密な色彩構成を特徴とする独自の作品のほか、文化財の復元にも積極的に取り組んでいます。伝統的な日本刺繍の粋をご覧ください。

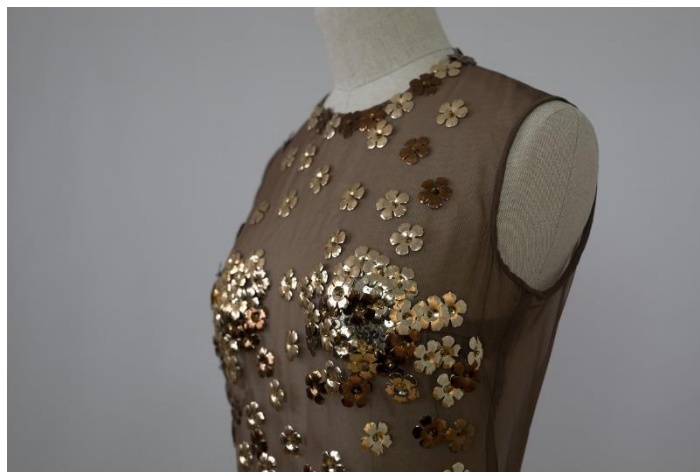
蝸牛あやは、日本古来の刺繍表現を研究しながら独自の表現を模索する現代アーティストです。柔らかな色調と光沢を特徴とする絹糸を用いて、モチーフとなる自然物を不思議な静謐さで描き出します。

小林モー子は、フランスの刺繍学校「エコール・ルサージュ」で様々なテクニックを学び、ビーズを使った刺繍を中心としたイラストレーションやアクセサリーの仕事を展開しています。画家や動物写真家とのコラボレーション、大型商業施設やファッションブランドの広告など、幅広く活躍する小林の作品には、現代的な美意識と手仕事の融合を見ることができます。

そして、ルーマニアのイーラーシヨシュ刺繍を現地で学び、独特の不穏さを持つ絵本挿絵を生み出している貝戸哲弥の作品が、2023年の巡回展示には加わります。子ども服のデザインに加え、CMや舞台の衣装を手掛けるなど幅広く活躍する貝戸は、黒一色の太い線による、不思議な図案の刺繍をワンピースやバッグにほどこすことで、刺繍の日常性を問い直しています。

※貝戸哲弥に加えて、武井武雄(図案)/大塚あや子(刺繍)の作品にも追加出品があります。

第4章 刺繍とファッション



左 図8. メゾン・ヴェルモン《刺繍見本〈タロットカード13「死神」〉》メゾン・ヴェルモン蔵
右 図9. 《イブニング・ドレス〈ジェーン・バーキン〉》メゾン・ヴェルモン蔵

展覧会は、フランスのオートクチュールを彩る華やかな刺繍の世界で幕を閉じます。

パリには、ディオールをはじめとする高級服のメゾンの発注に応える専門の刺繍工房があります。注文に応じて、図案や、ビーズやスパンコール、モールやコード、羽根などのさまざまな素材、刺し方などを提案し、具現化します。その多種多様なテクニックのうち、なかでもクロッシェ・ド・リュネビュルという特殊なかぎ針によってビーズを縫い留め、緻密な図案を生み出す表現が、独特の刺繍技法として知られます。

本章では、そうした工房のうち、ルサージュと並ぶ名門メゾン・ヴェルモンが所蔵するヴィンテージ刺繍と、同工房が注文に応える過程で制作した刺繍サンプルを通して、創意工夫に満ちたオートクチュール刺繍の世界をお楽しみいただきます。

関連イベント

館長美術講座「糸と布と衣服をめぐるお話」

8月26日(土)14:00~15:30

講師：木下直之(当館館長)

会場：当館講堂

担当学芸員によるフロアレクチャー

7月29日(土)、9月3日(日)

いずれも 14:00~14:40

集合場所：第1展示室 ※要観覧券

担当学芸員によるスライドトーク

9月9日(土)、9月17日(日)

いずれも 14:00~14:40

会場：当館講堂

夏休み子どもワークショップ「ちくちくアート」

8月5日(土)、6日(日)

講師：瀬川夏帆(フリーモーション刺繍作家)

対象：小学生 会場：実技室

※要申込・要観覧券(付き添いの方)

ちょこっと体験「刺繍」(予定)

8月11日(金・祝)~14日(月)

10:00~12:00、13:00~15:30

会場：館内無料エリア

対象：どなたでも ※申込不要

実技講座

8月19日(土)、20日(日)

講師：大塚あや子(刺繍家・本展出品作家)

対象：中学生以上 会場：実技室

※要申込・要観覧券(大学生以下は入場無料)

※定員等の詳細や申込方法は、約1か月前に当館ウェブサイトまたは館内配架チラシでお知らせします。

お得な割引サービス

平日限定！手作り刺繍割

ご本人の手作りによる刺繍をご提示いただいた方は、平日に限り、団体料金でご入場いただけます。お盆期間8月14日(月)と15日(火)は対象外です。

土日祝限定！お子様と異文化体験割

中学生以下のお子様をお連れの方(一般、70歳以上)は、お子様1名につき1名が団体料金でご入場いただけます。会期中の土日と8月11日(金・祝)、14日(月)、15日(火)、9月18日(月・祝)が割引対象日です。

※大学生以下は入場無料です。



図10. エヴァ・ブラーズドヴァー(刺繍)

パヴェル・ブラーズダ(原案) 《城》 個人蔵

※第3章出品作品

次回展覧会

スーパースター

「大大名の名宝—永青文庫×静岡県美の狩野派展」10月17日(火)~12月10日(日)

糸で描く物語展 広報用画像申込書

静岡県立美術館 (担当) 学芸課 貴家 (さすが)・川谷・浦澤 / 企画総務課 伊藤 宛
E-mail : webmasterspmoa@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp / Fax : 054-263-5742

- 本プレスリリースに掲載されている図1～図10を広報用画像としてお貸出します。
ご希望の画像に○をつけて、必要事項を記入し、上記メールアドレス、Fax 番号宛にお申し込みください。

○を 記入	番号	作者名・作品名・所蔵先
	1	《カヨタセグ地方ハンガリー人スカーフ》(部分) 20世紀半ば 谷崎聖子、シェレシュ・バーリント蔵
	2	《スロヴァキア北西部トレンチン地方エプロン》 スロヴァキア民俗芸術制作センター蔵
	3	サラ・イヌクブク《ダッフル製壁掛け〈お魚の話をするイヌイット〉》北海道立北方民族博物館蔵
	4	アイリーン・アヴァーラーキアク・ティクタラク 《ダッフル製壁掛け〈赤いダッフルの上の三つの精〉》北海道立北方民族博物館蔵
	5	大塚あや子(刺繍) / 武井武雄(図案)『武井武雄手藝図案集』刺繍 イルフ童画館蔵
	6	エヴァ・ヴォルフオヴァー《『コーヒーの泡から生まれたこねこ』絵本原画》作家蔵
	7	樹田紅陽《Six Cubes》作家蔵
	8	メゾン・ヴェルモン《刺繍見本〈タロットカード13「死神」〉》メゾン・ヴェルモン蔵
	9	《イブニング・ドレス〈ジェーン・バーキン〉》メゾン・ヴェルモン蔵
	10	エヴァ・ブラズドヴァー(刺繍) パヴェル・ブラズダ(原案) 《城》 個人蔵
	11	本展覧会チラシ表面イメージ

■御社基本情報

御社名： _____ 媒体名： _____

ご担当者名： _____ 発行・放送予定日： _____

TEL： _____ 発行部数： _____

FAX： _____ 掲載予定コーナー名等： _____

E-mail： _____ URL(ウェブの場合)： _____

連絡欄： _____

◎本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券(5組10名様)を読者プレゼント用に提供いたします。
ご希望の方は下記にご記入ください。

読者プレゼント用招待券を 【希望する・しない】

招待券送付先 【住所：〒 _____】

【画像ご使用に際してのお願い】

* 画像は本展覧会のご紹介のみを目的としてご利用いただき、使用後のデータは破棄してください。

* 画像キャプションを必ず明記し、画像への文字載せ、トリミングをする際はご相談ください。

* 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。

* 掲載後、広報担当者まで見本紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願いいたします。